

『マンダラの密教儀礼』（春秋社 1997年）正誤表

|                | 誤                      | 正                                    |
|----------------|------------------------|--------------------------------------|
| p. 100, l. 7-8 | <u>護法神の・・・インドラ</u>     | <u>シヴァ</u>                           |
| p. 123, 図 2    | (図中の線)                 | 外周部の幅を 2 倍にする                        |
| p. 123, 図 2    | (図中の線)                 | 対角線を梵線の $\sqrt{2} \times 1/2$ の長さにする |
| p. 123, 図 2    | (図中の「根本マンダラ」の矢印)       | 根本線の内側にまで伸ばす                         |
| p. 125, 図 5    | (図中の線)                 | 対角線を梵線の $\sqrt{2} \times 1/2$ の長さにする |
| p. 127, l. 9   | <u>この内部を根本マンダラと呼ぶ。</u> | (削除)                                 |
| p. 127, l. 11  | (「線となる。」のあとに追加)        | <u>この内部を根本マンダラと呼ぶ。</u>               |
| p. 135, 図 8    | <u>ひづめ</u>             | <u>クラ</u>                            |
| p. 147, l. 9   | <u>赤い金剛杵</u>           | <u>黒い五鈷杵</u>                         |

p. 126, l. 16~p. 127, l 2

「対角線の二本の線は・・・最も近い整数である」を以下のように訂正

対角線の二本の線は門十七個分の長さ、すなわち六十八マートラの長さを持つ。これは後で述べる楼閣の対角線の長さ $48\sqrt{2}$ マートラにほぼ相当する。対角線が梵線よりもはるかに短いのは、実際に対角線を必要とするのが、楼閣の内部に限られるためである。基本的にマンダラの墨打ちでは、必要な線のみが引かれる。